
茜色の青春

六道輪廻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茜色の青春

【Nコード】

N1731D

【作者名】

六道輪廻

【あらすじ】

毎年夏になると私は一人で丘に夕日を見に行く。今年もそうなるはずだった。

太陽が空に溶け出し、宵闇が近付いていることを告げている。

私はこの、夏の燃えるような夕焼けが好きだ。茜色から群青へと変わる景色も、夕刻になると海から吹き上げてくる風も、短い夏を感じ取るのには丁度良いからだ。

私は毎年、この時間帯になると一人丘にあがってこの空を眺めている。

そして今年もそうなるはずだった。

視線を感じて、ふと隣を見るとアイツとバツチリ目が合ってしまった。

私のなにが気に入ったのが、気が付けばアイツはいつも私に付いてきていた。

（アイツ曰く、私の事をもっと知りたいとか。意味が分からない）

私が突然振り向いたのに驚いたのか、一瞬目を丸くしたがすぐに柔らかに微笑まれた。

赤く輝く夕日に照らされた笑顔が眩しくて…

思わずそっぽを向いた私の耳にクスクスと、アイツの笑い声が流れてくる。

（何かムカつくな…）

そんなアイツの視線を振り払うように私は夕日に目を戻した。

いよいよ、沈みゆく太陽は輝きを増して

海も 空も

町も 私も アイツも

赤く染めた。

ああ、と安堵の声をあげそうになるのを堪えながら思った。
アイツと一緒にいる今が夕焼けで良かった、と。

でもきつとアイツは気付いているのだろう。

私の頬が、夕日以外の赤みをおびていることを。

(だって、アイツも夕日ぐらいに赤くなってるもの)

こんな乙女チツクな展開、私らしくないじゃないか。
コレが恋だなんて、私は認めるもんか。

茜色の青春

(後書き)

まとまりのない文章になってしまいました…(、、(、)

こんなハズでは… ; ; ;

読んで下さった方々、お目汚し申し訳ありませんm) (m

青春真っ盛りの恋って不安と動揺と、ほんの少しの甘酸っぱさで構成されているのではないかと思ひ出来上がった代物です)・・、(

では、このような言い訳にもならない後書きを読んでも下さって有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1731d/>

茜色の青春

2011年1月19日02時54分発行